

麻疹(はしか)の流行

麻疹のワクチンの定期接種は1歳時と6歳のときとなっており、基本的に2回行われています。従来は1回であったため、移行期において1回のみのおり感染を受けやすい世代も存在しております。

このような事情の中で、本年の3月に外国からの30歳代の観光客が沖縄において麻疹を発症し、この人より5月初めまでに90名以上が沖縄を中心に発症していると考えられています。

愛知県では4月以降に17名の発症があり、中学生で4月の沖縄旅行後の発症者がいます。感染力が強いため広がりを見せています。

麻疹は感染すると潜伏期の後に感冒のような症状がおきる時期があり、その後一度的に解熱しその後高熱が出現し、全身に発疹が出現します。その後回復していきます。このような中で合併症として麻疹肺炎と麻疹脳炎があります。これらがおきるのは麻疹発症時には免疫力が低下するため発症しやすいといわれています。統計では先進国であってもこのような重症となる合併症があるため1000人の発症に対して1名の死亡例があるといわれています。

さらに麻疹に感染してから数年の無症状の期間を経て、発症してくる合併症に亜急性硬化性全脳炎があります。はじめは微細な神経症状が現れます。発病後は数カ月から数年の経過(亜急性の経過)で徐々に神経症状は悪化し、数年から十数年で死に至る重篤な合併症があります。麻疹を発症した人の数万人に1人といわれています。感冒に似た状態からの発症ですが多彩な経過を撮る可能性があります。

予防はワクチンによります。十分でないことが考えられる場合(2回受けていない場合)には接種を受けることが大切です。

麻疹
(はしか)は
こう起こる

感染力が非常に強い。
接触だけでなく、
空気感染もする



症状

感染すると約10日後、発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れる。2～3日熱が続いた後、39度以上の高熱と発疹が出る。